



地域日本語支援ニュース こだま 第 253 号

2014.4.24



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■新年度のごあいさつ■

公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）理事長 関口 明子

2■春・AJALT 教材のお知らせ■

=====

新年度のごあいさつ

公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）
理事長 関口 明子

皆さま、こんにちは。

いつも地域日本語支援ニュース『こだま』をお読みいただきまして、ありがとうございます。

お陰様で『こだま』は2013年6月で丸10年を迎え、昨年度は区切りの年でした。今年度はまた、心新たに一步一步進んでいきたいと思っています。

テーマは昨年度に引き続き「ともに生きる」を掲げることになりました。6年後には東京にオリンピックが招致されることになりましたので、国としても新たな外国人施策が打ち出されてきています。

東アジアの中等教育（日本での高校にあたる）に多くの日本語教師を派遣することも決定しています。海外の若い世代に日本語のわかる人が増え、来日する人々が増えることはうれしいことです。それと同時に、既に日本に住んでいる外国にルーツをもつ方々への施策も、今以上に考えていただきたいと願って

います。

今年度も引き続き「ともに生きる」を掲げ、日本の各地で日本の経済を支えている人々、地域を支えている人々、日本人をひっぱって、元気づけてくれている人々、そのような方々をご紹介します。と思います。

そして、実は既に日本は外国にルーツをもつ人々に支えられて成り立っていることを、多くの人々に認識してほしいと思います。

日馬富士は法政大学大学院に合格し、相撲と学問の両立を考えて頑張っています。素晴らしいことですね。今後相撲界だけではなく、日本とモンゴルの架け橋となってくださることでしょう。

皆様の周囲の外国の方で、その活動を多くの方に知ってもらいたいという方がいらっしゃいましたら、ぜひ『こだま』にお寄せ下さい。

昨年度4月に1,500人だった『こだま』の読者数が、今年度4月には1,850人になりました。大勢の方々に読んでいただき本当にありがとうございます。今年度は読者の皆様の声をもっと多く載せていきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。
